

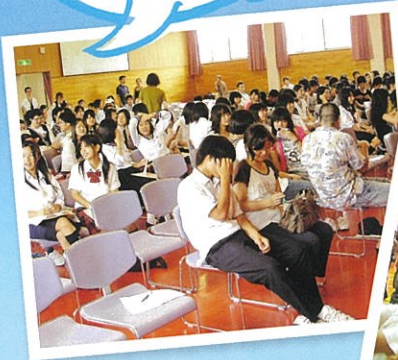
第5回

国際ボランティアワークキャンプ

5th International Volunteer Work Camp

in ASO

いよいよ第5回
ボラキャンの始まりです！



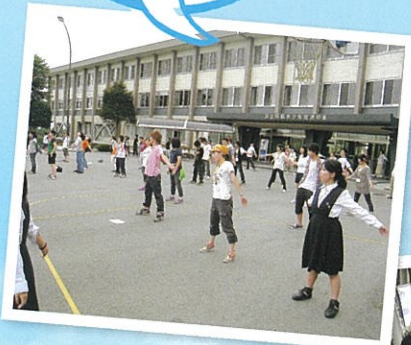
みんなで楽しく
“パチパチゲーム”で
仲良くなりました。



テーマについて
熱く意見が
交わされています。



朝からラジオ体操
で目覚めスッキリ。



フィールドワーク
はサイクリング
で水基めぐり。



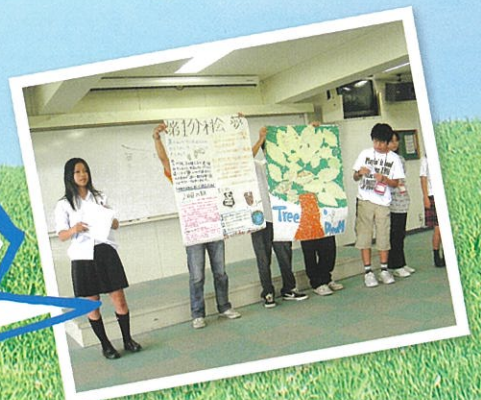
様々な活動をしている
大人の方の話を聞きました。



爽やかな緑の中を
みんなで朝のお散歩。



3日間にわたる
ボラキャンの
成果発表です。



Contents

目的／概要	P02
スケジュール	P02
オープニングディスカッション	P04
第1分科会	P04
第2分科会	P05
第3分科会	P05
第4分科会	P06
第5分科会	P06
第6分科会	P07
第7分科会	P07
全体報告会	P08
全体交流会	P08
留学生から	P09
ワークショップ2	P09
アンケート集計	P10
Smile Station	P10
実行委員会	P11

目的・概要

目的

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。
21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営するワークキャンプを阿蘇の大自然の中、二泊三日の宿泊型で計画・実施しました。

本ワークキャンプへは106名の高校生、19名の留学生が一般参加者として、また日本人大学生がサポーターとして参加しました。分科会活動等様々な活動をおし交流、お互いを理解、「思い」を共有し、日ごろの生活の中で活かせるボランティア活動の取り組みに結びつけていくことができました。

第5回となる本年度ボラキャンの、「Talk+○○=Smile」というテーマには学校や性別、国籍、様々な違いや立場を超えて人々が会話を通して、お互いに理解しあい、最後にはみんながSMILEになれるように、との思いが込められています。

スケジュール

1日目 (8月1日(日))

9:30	熊本市国際交流会館 出発(専用貸切バス)
11:20	国立阿蘇青少年交流の家 到着
12:00	昼食
13:00	開会式
13:20	オープニングディスカッション
15:00	Smile Time
15:40	分科会1
17:30	夕べの集い
17:45	夕食・入浴
19:00	全体交流会
21:00	Smile Time
22:30	就寝



■ 概 要

- ・実施年月日 2010年8月1日(日)～3日(火) 2泊3日
- ・実施会場 国立阿蘇青少年交流の家
(〒869-2692 熊本県阿蘇市一の宮宮地6029-1)
- ・参加者 156名(一般参加67名、留学生19名、実行委員39名、協力者31名)
- ・主催 国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
(高校生・大学生の構成メンバー及び構成団体については、最終ページに記載しています。)
- ・後援 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、日本ボランティア学習協会

ワークショップ協力者(敬称略)

国際協力: 斎藤 万芳、穴戸 伸彰(熊本ユネスコ協会)、吉岡 孝二郎、木下 俊和(国際協力機構九州国際センター)、吉田 智和、田村 和子(青年海外協力協会)、ニコラ・ラマルシェ・ドルアン、赤星 頼信(フェアトレードくまもと)、生山 洋一、江頭 隆生(日本フェアトレード委員会) 最相 博子(地雷廃絶と被害者支援の会・熊本)、藤原 かつり(熊本YMCA)、岩坂 省吾、津田 未矩(フリーザチルドレン)、岩谷 美代子、竹村 朋子(外国から来た子ども支援ネット)

国際交流: 松永 里美(青年の船参加者)

環 境: 澤 克彦、林 秀美(九州環境パートナーシップオフィス)、園田 敬子(NPO法人環境ネットワークくまもと)

社会貢献: 寺崎 拓(近代経営研究所)、石原 靖也、永松 達、坂口 裕俊(熊本いいくに会)、草野 泰宏(NPOくまもと)

アドバイザー: 興梠 寛(昭和女子大学・日本ボランティア学習協会)

コーディネーター: 木下 理仁(かながわ開発教育センター)

留学生コーディネーター: 佐藤 友紀(特定非営利活動法人 開発教育協会)

事務局: 八木 浩光、勝谷 知美、下田 隆文(熊本市国際交流振興事業団)

2日目(8月2日(月))

- 6:30 起床
- 6:50 清掃
- 7:15 朝の集い
- 7:30 朝食
朝の散歩(希望者のみ)
- 9:30 分科会
(昼食)
- 13:00 分科会(続き)
- 17:30 入浴
- 18:00 夕食
- 19:00 ワークショップ2
(いろんな活動家と
出会い話し合う!)
- 21:00 Smile Time
- 22:30 就寝



3日目(8月3日(火))

- 6:30 起床
- 6:50 清掃
- 7:15 朝の集い
- 7:30 朝食
- 9:00 報告会準備 [留学生プログラム]
- 10:30 報告会 10:30 阿蘇観光へ出発
- 12:00 閉会式 阿蘇火口・草千里見学(昼食・お弁当)
- 12:45 昼食 13:30 阿蘇出発
- 14:00 国立阿蘇青少年交流の家 出発
(専用貸切バス)
- 15:30 熊本市国際交流会館到着(解散)



私たちのスマイルを見つける旅

報告者：市原 茜（熊本高校）

オープニングでは、参加者が今回のテーマである「Talk+〇〇=Smile」を見つけるためパネルディスカッションを行いました。パネリストは、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの津田美矩さん、本ボラキャン実行委員長を務める内尾晶子さん、全国ボランティア学習協会代表理事である興梠寛さん、そしてファシリテーターとして本ボラキャン事務局の八木浩光さんの4名でした。

まず、パネリストにとってのボラキャンとは何なのか。津田さんにとっては自分を知るきっかけになった場所であり、同じ思いを持つ仲間に出会えた場所。そして、自分に自信を持つきっかけになった場所だと話している。内尾さんにとっては、仲間と笑顔を見つけた場所であり、かけがえのない場所。また、ボラキャン実行委員と参加者全員の笑顔は、内尾さんにとってエネルギーにもなったとのこと。興梠さんはボ



ラキャンをかけがえのない“いのち”を育み未来を照らし続ける“惑星”とたとえていました。

次に、OB・OGからのビデオメッセージを見ました。「高校生というのは、いろいろな人に助けをもらいながら自由に自分のやりたいことが出来る時期だ。足踏みしないで、何にでも挑戦してほしい。」「失うものはないはず。興味のあることには何にでも飛びついてみてほしい。」「ボラキャンは自分たちを劇的に変える『きっかけ』にあふれているところ。やって後悔することはないので楽しんで参加してほしい。」「何かを成し遂げるためにはチームワークが必要だ。一人でやれば、いつか限界が訪れる。人と協力することで、その力を無限大に発揮できるはず。」「というような内容でした。

最後に、パネリストから参加者全員、ボラキャン実行委員に向けてメッセージが送られました。内尾さんからは、「何よりも、笑顔忘れずにボラキャンに参加してほしい。」津田さんは、「楽しんで参加してほしい。」興梠さんからは、「笑顔で、楽しんで参加することはもちろん、お互いに協力し合って参加してほしい」という内容のことが送られました。

今回、オープニング・ディスカッションを通し、2泊3日のボラキャンをどのように過ごしていくべきなのか、どのようなことをこの3日間で考えなければならないのかが明確になりました。そして、実際に、3日間を有意義に過ごすことが出来ました。

分科会 | 第1分科会（参加者 18名）

夢 Talk + Dream = Smile

報告者：内尾 晶子（熊本高校）

私たち第1分科会では、夢について考えました。まず、1日目にアイスブレイキングとして「何でもバスケット」を行い、和やかな雰囲気になったところで、3人ずつの小さなグループで詳しい自己紹介などをしました。2日目は個々の人生設計を見せあったり、3枚の写真をもとにグループごとに物語を作ってもらい、簡単な解説をしたり、講師の木下さんのワークショップでストリートチルドレンについて考えたりしました。最後に参加者1人1人の夢を書いた葉っぱをちぎり絵で作った木に貼って、「Tree Of Dream」を作りました。1日目・2日目の活動を通して、1番印象に残っているものは最後に作ったTree Of Dreamです。それぞれ夢には大きいもの、小さいもの、遠い未来のことや、身近な将来のことなど様々で、とても刺激を受けることができました。また、2日間の間に沢山のひとと様々な話ができたのも、とても楽しかったです。2日間素晴らしい経験ができて、とても嬉しかったです！

協力してくださった皆さん、参加してくれたみんな、ありがとうございます。



日本文化 ~継承されていく文化~

報告者：渡辺 和幹 (松橋高校)

私達、第2分科会は「日本文化~継承されていく文化」というテーマについて考えました。これは今、日本には外国の文化がたくさん入って日常にまでなってきました。そんな中、あらためて日本文化とはなんなのかを考えました。そしてその日本文化を継承していくにはどうしたらいいかという課題から、今回この分科会を進めました。

まず、1日目の活動は留学生の方や高校生が日本文化についてどう思うかを話し合い、それを発表しました。日本文化についてのイメージを持ってもらい、2日目に入ります。

2日目は日本文化について少しでもふれてみようということで、まず凧作りをしました。みんなで班をつくり力を合わせ、作りました。しかし細かい作業が多くみんなとても苦労していました。そして凧が乾くまで日本でよく遊ぶ室内遊びをしようということで折り紙や福笑いやかるたをしました。その中でも特に、福笑いとかかるたがとても盛り上がっていました。やはり、みんなで遊ぶ方がとてもおもしろいですね。

そして昼からは肥後花菖蒲についてプレゼンテーションをしました。肥後花菖蒲という花がとてもめずらしい花なので、留学生の方は不思議そうな顔で見っていました。今回私達もこの花の事についてあまり知らなかったので私達もとても勉強になりました。この花菖蒲についてはオブザーバーの方に詳しく話していただきました。そしてその花菖蒲を広め、残していくにはどうすればよいかみんなで話し合いました。みんなとても真剣に考えてくれて多くの意見を出してくれてスムーズにまとまり



ました。

最後に今まで体験してきた日本文化のすごさや気づいたことや、どのように日本文化を継承していくのかをディスカッションをしました。はじめはやっぱりテーマが難しかったせいか意見があまり出ませんでした。でも後から少しずつ出て、ついにはボードが文字で埋めつくされました。みんなが出してくれた意見をもとに次にまとめを行いました。広用紙にいっぱい書いてとても良かったです。

今回、この日本文化というテーマをやって感じたことは、留学生の方だけでなく日本人も知らないことが多かったということです。日本文化を残していきたいなら私達もしっかりと文化のことを解っておかなければならないと思います。それと同時に、留学生の方と、いっしょに学べていけたら、もっと交流も深まっていくと思います。

外国文化 わたしたちの地球(ふるさと)をもっと知ろう!!

報告者：黨 翠 (熊本高校)

第3分科会「外国文化」では、いろいろな文化を知ることが楽しい!というテーマで、外国の文化を知って、感じて、体験しました。それらの活動を通して多くの人とふれあうことができました。

分科会では、まず一つ目に小グループに分かれて実行委員が各国・地域に関する文化のプレゼンテーションをし、それについての感想や意見交換をして、個人の異文化に対する考えをより深めることができました。また留学生の方々の国の文化の話も聞くことができ、有意義な話し合いができたと思います。

二つ目には「食」をテーマに、留学生との交流をしました。あらかじめ自分の国や地域の名産や特産物を書いてもらい、それについて説明してもらいました。中国やスリランカのお菓子を知らることができ、また留学生にも日本の名物や熊本の特産物を教えることができました。

最後の活動として、青年海外協力隊のOGである田村和子さんをお呼びして、南米音楽体験をしました。日本の音楽とはまた違った南米の音楽を聴き、田村さんの外国での体験談を聞きました。またそれだけではなく南米のお祭りの衣装などを身に



まとい、実際に自分で楽器を演奏したりしました。分科会の部屋が南米モードになり、分科会のメンバー全員でとても楽しい体験ができました。

3日間の分科会を通して、改めて自分たちには知らない文化が多いことがわかりました。それと同時に、知らなかったものを知っていく楽しさもさらに実感することができました。グローバル化が進む現代社会では、外国との距離が非常に縮まってきました。この第3分科会の活動が、みなさんがこれから異文化と触れあう時に役立つことを祈っています。

環境 Cycling で Feeling

報告者：野呂 一葉 (九州学院高校)

私たち第4分科会は、環境の中の『気温上昇』について話し合いました。

1日目は、まず4つの班に分かれて、「家庭用水使用目的別の割合」がどのようになっているかを考えてもらいました。風呂・トイレ・炊事・洗濯・その他の5項目で考えてもらった結果、何%かというズレはあったものの、どの班も正解に近い答えを出してくれました。その次に、「今と昔で変化したもの」を班で何個かずつ出してもらいました。多く出た意見の1つにここ何年、話題になっている、ゲリラ豪雨や、ドイツでは以前は街で洗剤の使用が認められていたのが、法律で禁止されたという話があげられました。1日目の分科会の終わりには次の日の湧水巡りの動機づけを行いました。

2日目は第4分科会のメイン、阿蘇青少年交流の家から阿蘇神社までサイクリングをしました。阿蘇神社に着いた後は、1日目と同様の班で阿蘇神社周辺の湧水巡りをしました。阿蘇神社をスタートにビンゴゲームの紙に載っている24か所の湧水を約1時間半かけて回りました。阿蘇の恵みをもたらした同じ湧水でも、場所によって水の味が違ってとても驚きました。湧水巡りは、結局全部見つけることが出来なかった班もありましたが、この体験を通じて水の大切さについて分科会のメンバーは改めて考えさせられました。サイクリングは行きは下りで楽だったものの、そのかわりに帰りの上り坂がとても辛かったです。サイクリングから戻って少し休憩した後、今度はEPO九



州の澤克彦さんをお招きして、環境について話をしてもらいました。澤さんの講議の中

では分科会の皆で澤さんが用意した、川や山などが描かれている布に、「残したい自然」や「残すためにはどうすれば良いか」を書いたシールを貼って大きなタペストリーを作りました。

この2日間で気温上昇に因る水資源の減少について考え、熊本に暮らす私たちは、阿蘇からの恵みである地下水が何ん自由なくあり、それを当り前だと思っているけど、本当は当り前ではないことが改めて分かりました。限りある自然の恵みを後世にどれだけ残せるかが私たちにとって大事な役目だと思います。このボラキャンで学んだことを、これからも忘れずに大切にしていこうと胸に刻みました。

最後に、参加してくれた高校生・留学生の方々、またサポートしてくれた方々には本当に感謝しています。ありがとうございました！

社会問題 Pets can have SMILE ~ぼくらはみんな生きている~

報告者：中村 遥奈 (熊本高校) 三藤 紫乃 (済々黌高校)

第5分科会では、殺処分されるペットについて学び、ペットを飼う際に最も大切なことは何なのかを話し合いました。

1日目は、自分の飼っているペットについて語ってもらった後に、ペットを飼う場合の利点・欠点を発表してもらいました。利点としては和む・癒されるが多く、欠点としてはほえて近所迷惑になる・世話が大変といった意見が挙げられました。

また、ペットブームについてその火付け役となったCMの視聴や簡単な説明を行いました。

2日目は、全国で殺処分率が最も低い熊本市の動物愛護センターの職員の方を招いて、センターの説明やペットの殺処分の現状についてビデオやスライドショーを用いてお話ししてもらいました。説明の中には実際に動物を殺処分する場面もあり、大変胸が痛みました。

午後からは阿蘇保健所に行き、保護された犬3頭を目の当たりにしました。中には、明日処分される犬もいて、その犬が延々とほえていたのが、印象的でした。

これらの分科会活動のまとめとして、私たちはペットを飼うときに飼い主となる人に一度ペットについて考えてもらいたいと思うことをチェックリストにしました。最もペットを飼うときに理解してほしいこととして「あなたは最期までペットを飼う覚悟はありますか？」ということが挙げられました。また他



にも「ペットと過ごす十分な時間はありますか？」や「ペットを飼うのに十分な経済力はありますか？」なども挙げられました。

私たちは学校や職場に行けば友達がありますが、ペットには私たちしか友人・家族はいません。また、私たちはペットを選ぶことができますが、動物たちには飼い主を選ぶことができません。そのことを理解してもらおうと同時に、ペットを飼うこととはどういうことなのかを今一度この機会に深く考えてもらえたらと思います。

今回第5分科会に参加してくださった皆さん、協力及びサポートしてくださった方々本当にありがとうございました。今回、この分科会で学んだことをより深く考え、広めていただくできれば幸いです。

多文化共生 世界が一つになるには

報告者：田中 聡至 (真和高校)



私が実行委員として参加した第6分科会ではアイスブレイキングのゲームや、中国語での授業をとおして異なる文化が共生する事の難しさについて学びました。

この分科会はこの分科会と少し異なり、昨年より続いてきた分科会だったので、昨年度の反省を活かしつついろんなことをしました。

1日目の自己紹介のときにおおまかな流れを説明し、中国にルーツを持つ実行委員に協力してもらい、それぞれが自分の名前を中国語読みで読めるように練習しました。

2日目には午前、午後をめぐって様々な文化が交わり合う様子を体験しました。本物の中国の数学の先生に授業をしていただいたり、タガログ語で作られた問題を解いてみると、多様な文化が共生する中での言葉の壁を身をもって知りました。中国の学校の写真や寸劇を通して、言葉以外の『心の壁』にも触れました。

最終日は分科会の時間は1時間ほどしかありませんでしたが、3日間のまとめとして、それぞれが自分の意見を付箋紙に書き、広用紙にそれらを貼って、報告会の準備をしました。

3日間を通して、予想外のことも多くありました。でも最終的にはみんなの距離が縮まり、まとまりのある分科会になったと思います。

一般参加者に対して伝えたいこと、というのが漠然としていたためか、2日目にもうけた話し合いで行き詰まったり、今後に残せるものが少なかったかなと反省しました。しかし最後のまとめでは、多文化共生という言葉に対してそれぞれの価値観をもってくれたということがわかり、安心しました。分科会を運営する側ではありましたが、改めて多文化共生という言葉の難しさを学びました。

もしまた、来年も多文化共生の分科会がつけられるなら、今年度の反省をいかして後々形として残るものをつくってほしいと思います。



最後になりましたが、この分科会を支えてくださったみなさん、本当にありがとうございました。

自己表現 新しい自分探し！コーディネーターになろう

報告者：岡本 将希 (熊本高校)

第7分科会では「Talk+Color=Smile」をキーワードにして、「色」による自己表現を目的に活動しました。「色」を通して自分を表現するという難しいテーマでしたが、参加してくれた方や、サポートして下さった方のおかげで最後には立派なボラキャン旗を完成させることができました。

1日目は、まず色紙や雑誌の切り抜きを使用して、自分や他人の「カラー表」を作成しました。色紙の色や雑誌の中にあつ



た色や模様と自分で切り抜いた形だけで、人を表現するという難しい作業でしたが、作業の中で新しい発見や気づきがあったと思います。

2日目には色の持つ性質や分類に関する学習をしました。1日目に作ったカラー表の持つ意味などを知って、今後役立つものになってくれたと思います。

その後は、「カラー表」を元にグループ分けをして旗の原案を作成し、みんなで出し合った意見をグループごとに発表してもらいました。その後に話し合いで意見をまとめてボラキャンの旗の制作を行いました。想像以上のすばらしい出来でとてもうれしかったです。

難しい分科会の活動でしたがみんなが楽しく、意欲的に活動することができたと思います。これからの生活の中で、分科会で得たものが役立ったらうれしいです。

最後に、明るく、フレンドリーに参加してくれた参加者の皆さん、サポートして下さった方ありがとうございました。



全体報告会

報告者：小原 麻衣（熊本高校）



ボラキャン最後のメイン活動はこの全体会でした。2日間かけてそれぞれの分科会で学び、感じたことを互いに発表しあいました。発表は参加者が一人一人感想を述べたり、見ている人にクイズを出題したり、活動の中で作った作品を披露するなど分科会ごとに特色があり充実したものとなりました。そして発表の後には高校生でボラキャンのテーマソングを大合唱！テーマソングは今年初めて作られたものです。実行委員会で「キセキの旅」という歌を作詞作曲から手がけました。作詞は昨年度からボラキャンを引っ張ってきた実行委員長の内尾晶子さんによるもので、ボラキャンでの仲間との出会いから生まれていくキセキを感じてほしいとの想いが込められています。参加者にもこの2泊3日の間に覚えてもらい、全員総立ちで歌って全体会の幕を閉じました。



全体交流会

報告者：大和 賢佑（真和高校）



1日目の交流会はみんな汗をかくほど盛り上がっていました。まず、体育館の中を歩き回り、木下さんの指示に従ってハイタッチをしたり、握手したり…。高校生、大学生、留学生が入り混じってペアやグループを作り、目をつむった状態でのキャッチボールなど、一風変わったゲームを楽しみました。その後、『違いの違い』と題して、区別があつていいのか、あつてはいけないもののかについて話し合いました。自己紹介を交えつつ初対面の人たちとの話し合いましたが、全員が世界の現状に対して真剣に向き合うことができ、充実した時間を過ごせたのではないのでしょうか。本当に短い2時間でした。



留学生から

報告者：Tiku Oscar（熊本大学・インドネシア出身）

It was great to have participated in the Volunteer Work Camp in Mount Aso on last August. It was three days and two night full of activities. I communicated with many high school students and international students. During the camp, I learned about Japanese toys and culture more; making the toys was a really precious experience and good memory for me. The committee and participants were helping each other and communicating well during the program. I remember that every group must present something that they worked during the camp. We made posters with cute decorations using Japanese kites and origami, and everyone on the team showed their spirit of hard working that strengthened the team.

The place where the camp was held was beautiful. I got fresh air, a new experience of hiking on a mountain, walking



and taking photographs around the mountain in the morning. Sharing a room and hot spring with other international students made it possible to speak with them more, understand their unique personalities and culture that define them. The food was delicious, and even though it was summer and really hot, seeing everyone cheer and laugh made me feel that I want to do this again someday.

The volunteer presentation night is still fresh in my memory where I realized that I may do something for others and the nature by volunteering, and was encouraged also by one of my teachers who does volunteering herself as a Japanese teacher for foreigners. All activities and support during this camp are really great, thank you so much for all the parties that took place for the success of this volunteer camp. I am looking forward to getting involved in future volunteer work for creating better living.

ワークショップ2

いろんな活動家の方々と話しをしよう

報告者：渡辺 彩水（熊本高校）

ボランティアワークキャンプ2日目の夜、ワークショップ2を行いました。

このワークショップは様々な方面で活動されている活動家の方をお呼びしてお話を聞こう！！という活動です。

今年は6グループ、17団体の活動家の方をお呼びしました。



2時間という時間の枠の中で、各自が思い思いのブースへ向かい、活動家の方々と活発な意見交換をしている様子が多く見受けられました。

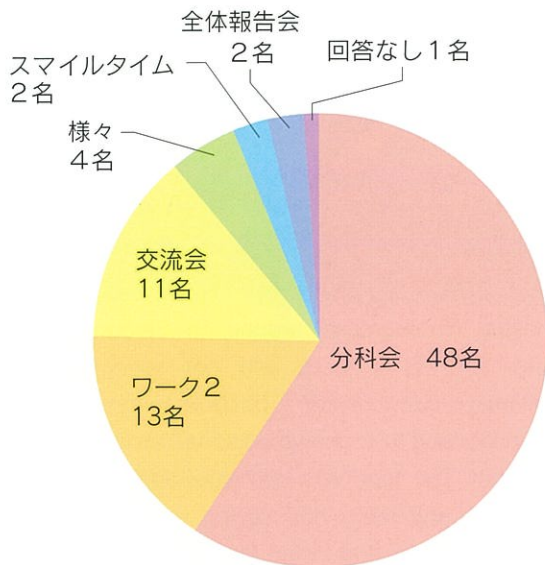
ワークショップを通して、普段の自分たちの世界とは違う世界を垣間見ることができたのではないのでしょうか？

この貴重な体験を生かして様々なことに興味を持って積極的に行動に移してもらえると嬉しく思います。

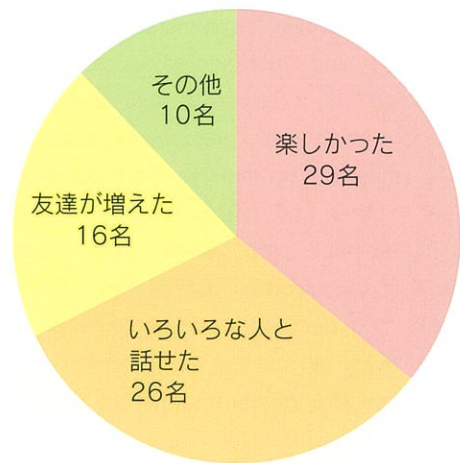
アンケート

報告者：緒方菜津美（必由館高校）

一番印象に残った活動は？



1日目夜の交流会はどうでしたか？



[アンケート回収数 81枚]

●分科会の感想

- ・とても楽しかった！多くの人と仲良くなれた。
- ・視野が広がった気がする。いい経験になった。
- ・世界にはさまざまな文化、言葉、考え方があるということが改めて分かった。
- ・分科会で学んだことをもっと勉強したくなった。
- ・普段考えないことを深く考え、みんなとディスカッションすることの大切さや楽しさを実感した。

●その他の感想

- ・ボランティアに漠然としたイメージしかなかったけど、「やれること」が具体的にあると分かった。
- ・“人とのつながり”を大切にしていきたい。
- ・いろんな国の人と交流ができたのでいい経験になった。刺激になった。
- ・3日間を通し、共に過ごしていく大変さや、楽しさ、喜びを感じることができた。
- ・たくさんの団体の話や活動が聞けてよかった。
- ・自分なりのTalk+○○=Smileを見つけていきたい。

他にも同じような意見がたくさん寄せられました！

あなたの参加を
お待ちしております

「ボランティアに興味がある人々の笑顔が集まる場」が熊本市国際交流会館に！

★Smile Station★

Smile Stationは、「国際ボランティアワークキャンプ」で築いた高校生の絆を大切にしていきたい、ボラキャンをもっと継続的に身近なものにしたい、という思いから始まりました。毎回たくさんの高校生が集まり、様々なボランティア活動の情報交換の場となっています。また、Smile Station独自に書き損じハガキ集めや、エコキャップ集めも始めています。

- ★ 笑顔が好きな人
- ★ たくさんの人に出会いたい人
- ★ 何か活動をしたい人
- ★ 何か活動を紹介したい人
- ★ ボラキャンに興味のある人



是非Smile Stationへ

日時：毎月第1土曜日14時～

場所：熊本市国際交流会館

ブログ <http://smilestation.blogzine.jp/>

緒方 彩乃（熊本高校）



主催 第5回 国際ボランティア ワークキャンプ実行委員会 高校生実行委員会メンバー

- 上島 菜摘 * 阿蘇清峰高校
- 広岡妹菜美 * 阿蘇高校
- 湯浅 誠香 * 阿蘇高校
- 深浦 彩香 * 宇土高校
- 西田 淳基 * 宇土高校
- 仲原 裕吾 * 宇土高校
- 齊藤万里子 * 学園大付属高校
- 西田 茜 * 九州学院
- 野呂 一葉 * 九州学院 (副実行委員長)
- 坂田 理子 * 熊本高校
- 越智 彩 * 熊本高校
- 岡本 将希 * 熊本高校
- 吉村 絵美 * 熊本高校
- 戸野本昌大 * 熊本高校
- 坂口 詩歩 * 熊本高校
- 小原 麻衣 * 熊本高校
- 中原友里恵 * 熊本高校
- 中村 遥奈 * 熊本高校
- 渡辺 彩水 * 熊本高校
- 内尾 晶子 * 熊本高校 (実行委員長)
- 王 爽 * 熊本高校
- 市原 茜 * 熊本高校
- 緒方 彩乃 * 熊本高校
- 石村 華子 * 熊本高校
- 黨 翠 * 熊本高校
- 宋 展宇 * 秀岳館高校
- 崔 雅琪 * 秀岳館高校
- 船屋 彰 * 城北高校
- 安藤 倫子 * 信愛高校
- 北野 詩織 * 信愛高校
- 大和 賢佑 * 真和高校
- 田中 聡至 * 真和高校
- 三藤 紫乃 * 済々黌高校
- 緒方菜津美 * 必由館高校
- 松岡 誠一 * 松橋高校
- 渡辺 和幹 * 松橋高校
- 八森 大輔 * 松橋高校
- 山下 史令 * 御船高校
- 上原 勇樹 * 御船高校
- 白石絵里香 * 御船高校
- 安田隆之助 * 御船高校
- 中島 知宏 * 御船高校
- 宋 宇 * 湧心館高校

実行委員よりメッセージ

- ★「ありがとう!!大好き」 熊本高校 内尾 晶子
- ★今回のボラキャンではすごく良い経験ができ、自信が持てました! 九州学院高校 野呂 一葉
- ★「テンションだけで走り抜けた数ヶ月、ほんとにたのしかったです。」 真和高校 田中 聡至
- ★ボラキャンに出会えたことECメンバーに出会えたキセキに感謝!! 熊本高校 渡辺 彩水
- ★初体験ばかりですごく充実した5ヶ月間をありがとうございました。学園大学付属高校 齊藤万里子
- ★とにかく楽しかった!!ボラキャンで経験したこと、熊本高校 緒方菜津美
ECをはじめたくさんの人に出会えたこと、すべてが私の宝物です。
- ★初めてのボラキャンはすべての事が新鮮でとても楽しかったです。熊本高校 市原 茜
- ★ボラキャン、すごく楽しかったです!!来年も頑張ります☆ 熊本高校 緒方 彩乃
- ★大変だったけど、3日間とても充実していてすごく楽しかったです!! 熊本信愛女学院高校 安藤 倫子
- ★いろんなことを学び、たくさん成長した3日間でした。楽しかったです!! 熊本高校 坂田 理子
- ★とても充実した3日間を過ごせました。宇土高校 西田 淳基
- ★Smile everyone! Your smile makes everyone happy!!! 熊本高校 越智 彩

実行委員長よりメッセージ

内尾 晶子

第5回ボラキャンは15校43名の高校生が実行委員会EC(Executive Committee)として活動しました。今年はECの人数が多く、住んでいる地域もバラバラで、コミュニケーションをとることが、とても難しかったです。月1程度で行われてきた事前のEC会では、メンバーに伝えたいことが伝わらなかったり、周りの意見に流されて自分の意見が言えなかったり、意見がまとまらなかったり…。とにかく大変でした。でも、そういうことを解決したくて悩み、話し合うことで、ECメンバー1人1人が少しずつ変わりました。ボラキャン当日にも様々な問題が発生し、バタバタすることもありましたが、それによって発見もありました。例えば、自分を支え、必要としてくれる仲間がいること、自分1人では出来なくても他の人と協力すれば出来ることがあること。当たり前のように、なかなか分からない、大切なことを発見できたことで、私たちは成長したと思います。この経験を将来のあらゆる場面で活かしたいと思います。私は沢山のSMILE、出会い、発見があるボラキャンのことが大好きです。私たちに素晴らしいチャンスを与えてくださった参加者、協力者、大学生、そして、オブザーバーのみなさん、ありがとうございました。



■主催構成団体（順不同）

- ・株式会社近代経営研究所
- ・財団法人熊本市国際交流振興事業団
- ・株式会社リモナイト
- ・熊本ユネスコ協会
- ・独立行政法人国際協力機構九州国際センター
- ・熊本留学生交流推進会議
- ・国立阿蘇青少年交流の家

■後援

- ・熊本県教育委員会
- ・熊本日日新聞社
- ・熊本市教育委員会
- ・日本ボランティア学習協会

■事務局

財団法人熊本市国際交流振興事業団
 熊本市花畑町4番8号熊本市国際交流会館 TEL：096-359-2121

